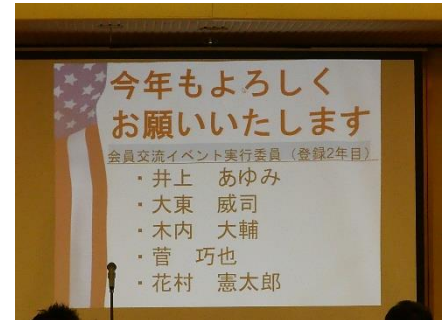


## 平成29年 賀詞交歓会 青年部主催 会員交流イベント 苦心談

執筆：木内 大輔

1月21日(土)の賀詞交歓会にて青年部主催の会員交流イベントが開催されました。このイベントは例年、2年目診断士の企画・運営進行により行われています。今年は井上あゆみ先生、大東威司先生、菅巧也先生、花村憲太郎先生と、私木内の5名で担当させていただきました。この度は、「城北大選挙 城北のトランプは誰だ!？」と題した企画から当日までの後日談を記させていただきます。



### ● はじまりのメール ～ 役割決め

はじまりは11月末の青年部谷藤先生からのメールでした。私は賀詞交歓会に出席したことはなく、イベントがどのようなものか分かりませんでした。あまり深く考えず了承の返信をしました。

初回の打合せは12月8日に神保町の学士会館にて、ご都合がつかなかった井上先生を除く4名と谷藤先生の計5名で行いました。例年と同じくグループワークにすることは早々に決まりましたが、問題はどんなテーマにするかでした。これまで診断士交流イベントでグループワークに参加したことは何度かあります。しかし参加するのと企画するのでは大違いで、なかなか良い案が出てきません。当初の想定より多くの時間を要し、時事的な米大統領選挙になぞらえて城北支部の象徴を選ぼう、という今回の企画の骨子がまとまりました。

続いて役割分担です。「司会はどうしましょうか？」の問いかけに皆一瞬の沈黙。実務補習での役割決めのような感覚が頭の中をよぎります。結果的に司会は私が務めることが決まりました。

### ● 前日までの運営準備

打合せ後は役割に応じて各自準備です。年末にはパワーポイント作成担当の花村先生からインパクトある資料が送られてきました。年始には調達担当の大東先生から綿密な計画、くじなど当日使用する用具作成担当の井上先生からは完璧な準備状況のご連絡が続きます。

一方の私はといえば年末年始の休みボケからエンジンがかからずメールの返信すら滞る始末。(他の先生方、この場を借りてお詫び申しあげます。)結局、私が準備し始めたのは開催当日1週間前のことでした。司会について考え始めると当日の運営について十分理解できていないことに気づきます。具体的には、投票はどのようにするのか、清水支部長からどのタイミングでコメントをいただくかなどです。急遽当日の運営メモを作成し、他の先生方への確認や調整を行いました。司会の練習にいたっては前日の夜です。会社の会議室を利用してこっそり行いました。あわせて冒頭で話す内容のノートを書いたり、スライドの順序を微調整したり、グループワークで往々にしてある「この時間で何をやるのだったか？」とならないためのスライドを追加したり。なぜもっと前から準備しなかったのだろうと“いつものように”後悔しつつ、「明日少なくとも悲惨な状況にはならないだけのことはした」と自分に言い聞かせました。

### ● 会員交流イベント当日

いよいよ当日です。イベント詳細は割愛しますが、セッティングに思ったよりも時間がかかったり、各テーブルの人数調整が必要だったりといった事態も生じましたが、菅先生と大東先生の適切な対応で乗り切ることができました。

「グループワークを始めてください」と言った時の会場のザワつきや苦笑いの声は今でも思い出しますが、参加いただいた皆様のお力で面白いイベントにできたのではと思います。また、時間を超過することなく進行できましたのも皆様のおかげであると共に、さすが診断士の時間管理力と感服しました。

## ● 終わってみて

振り返ってみれば2ヶ月足らずで間に年末年始を挟むという短い期間でしたが、良い経験をさせていただきました。改めて、2年目診断士にこのような場の企画・運営進行の全てを任せるというオープンかつフラットなところが城北支部の良さだと思いました。

最後に、素晴らしい準備と対応をくださった他の先生方と、随時適切なアドバイスをくださった谷藤先生にお礼を申しあげ、本稿の結びといたします。

## 会員交流イベント「城北大選挙 城北のトランプは誰だ!？」 優勝チームインタビュー 取材:仲村 健太

城北支部新年賀詞交歓会の第一部青年部主催の会員交流イベント「城北大選挙 城北のトランプは誰だ!？」の立候補者PRでは、模造紙から顔を出したり、ピコ太郎のPPAPのリズムに乗ったり、インパクトのある似顔絵を描いたり、城北支部をダンディーやイケメンにしたりと各チームが趣向を凝らした大盛りあがりのイベントとなりました。



そこで優勝チームの立候補者 杉山先生にインタビューしました (S:杉山先生、N:仲村)。

N: 「サーフィン」で、公約とは大胆で意外でしたね!

S: パツとは意外そうに感じるかもしれませんが、サーフィンの試合には診断士のスキルおよびビジネスに通じるものがあるのです。特に外部環境を予測して、行動するところです!

今のご時世は自然の環境変化と同じように世界の経済状況も刻々と激しく変わります。それと同様に海の上でも激しく変わる波の状況を外部環境として捉えて、それに乗れるよう行動するのです。

N: なるほど! それでは今後の公約実現にむけた意気込みを教えてください。

S: 公約実現にむけては、自分たちのチームだけではなく、「城北イケメン化」を公約した2位のチームとコラボして相乗効果を発揮する公約実現を図ります。それには清水支部長のイケメン化に着手します(笑)。野望としては、やはり診断士の仕事上だけではなく、個々が持っている得意分野や好きなことを引き出して、心から楽しんで城北支部を変えていきたいです。





2016年4月に診断士登録し、城北支部に入会させていただきました梁川です。現在第4期プロコン塾に参加しております。

2016年6月まで企業勤めをしておりましたが、諸事情あり思い切って7月に独立しました。現在右も左もわからず、まさしく右往左往の状態ですが、これを機会と捉えて出来るだけどこにでも顔をだしてやろう、をモットーに活動しております。

私は化粧品のOEMメーカーにて、生産管理、法人営業、商品企画を経験し約20年間勤めてまいりました。特に商品企画においては、顧客である大手メーカーにて企画段階から参加するなどの経験を積み、化粧品のマーケティングを学んでまいりました。

また2011年からは毎月の半分を中国で、半分を日本で過ごすというような経験を3年間続けてきました。よって中国ビジネスに対して多少の知見もございます。

プライベート面では、酒とギターとバイクを愛する一方、甘いものと女性が苦手な46歳の空手家でもあります。特に空手に関しては途中ブランクを挟みますが高校生の頃から続けており、極真空手の全国大会での入賞経験もございます。

今後の抱負としては、日本の根底を支える中小企業の強みを世に出すお手伝いをする事で、企業の成長のみならず産業発展の貢献へとつながるような仕事、さらには多くの人とその恩恵を受け幸せになれるような仕事がしたいです。大言壮語と取られるかも知れませんが、これを自分の使命として診断士活動を行っていきたくと考えております。

最後に、見た目は多少怖いかもしれませんが、見かけたら気軽にお声がけください。特に化粧品、格闘技に関しての質問や、飲みのお誘いは大歓迎です！

### 【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

#### ①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

#### ②皆さまが知りたいことを教えて下さい

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
- ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

#### ③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

#### ④本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部：[jhoku.kouhou@gmail.com](mailto:jhoku.kouhou@gmail.com)まで よろしくお願い致します。

JOUHOKU SHINDAN 誌

2017年2月27日発行

発行者：城北支部長 清水一都

編集者：城北支部 広報部